第３学年　社会科学習指導案

１ 単元名　「火事からまちを守る」

２ 単元の目標

○消防署や警察などの関係機関は，地域の安全を守るために，相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや，火災などから人々の関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解するとともに，調査したり調べたりしてまとめることができる。【知識及び技能】

○施設・設備などの配置・緊急時への備えや対応などに着目して，関係機関や地域の人々の諸活動を捉え，相互の関連や従事する人々の働きを考え，表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

○消防署のはたらきについて，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，地域社会の一員としての自覚を養う。

【学びに向かう力，人間性等】

３ 指導計画（本時 11/11 時間目）

次	時	ねらい	学習課題　まとめ 学習活動　◇追求したくなる課題の設定　◆考えを深めさせる指導の工夫	・留意点 ●資料
	1	＜考察＞ ○火事の映像や話を聞くことで，火事の恐ろしさを感じ，消火活動に関心をもつ。	◇大火のニュース映像を視聴し，被害の状況や消火活動している人を確認する。 ◇校長先生から，過去に町で発生した大火の話と身近に起こった火事の体験談を聞き，火事の恐ろしさを感じると共に，火事は身近に起こる可能性があることを捉える。 【単元を貫く学習課題】 ◎だれが，どのようにして火事からわたしたちのまちを守っているのだろうか	●政令市新潟 P80 ●大火のニュース動画 ●校長先生の話 ・学習の感想を発表し合う
	2	＜考察＞ ○消防士や消防署が行っている働きについて予想し，インタビューする内容を考える。	◇火災現場の写真から，消防士が行っていることを予想する。 もし，○小が火事になったら，どうやって火を消すか？ ◆消防士や消防署が行う働きを予想する。 ◆火事現場のイラストを参考にしながら，消防士に聞いて確かめたいことや疑問に思うことを出し合う。 ・もし，水がなくなったらどうするのか。 ・夜中に火事が起きたらどうするのか。 ・火事がないときは，何をしているのか。	●政令市新潟 P84・85
	3・4	＜考察＞ ○リトルファイヤースクールに参加して，消防車の設備や防火服などの道具が迅速な消火活動につ	消防士は，火事に備えてどんな仕事をしているのか。 ◆消防自動車の設備や道具について特別救助隊の話を聞く。 ◆防火服の説明や着用体験を通して，防火服の工夫を捉える。 ◆消防士の出勤・消火活動の様子について，説明や動画視聴を通して理解する。	●「消防のしごと」市消防局発行小冊子 ●You tube 新潟シティチャンネル ●消防士さん

		ながっていることを捉える。	◆消火体験を通して，自分にできる消火方法を理解する。 ◆確かめたいことをインタビューする。	の話 ●特別救助隊の話
	5	<考察> ○リトルファイヤースクールで知ったことを振り返り，消防士について分かったことをまとめる。	◇リトルファイヤースクールで知ったことを振り返る。 ・大きな火事の時は，応援の消防車が来る。川や地域の消火栓から水を補給することもある。 ・交代で働き，24 時間準備をしている。 ・道具の点検や準備を毎日必ず行っている。 消防士は，すぐに現場にかけつけて消火ができるように訓練をして備えている。消火の道具には火事をすばやく消すための工夫がたくさんある。 ◆分かったことを整理し，関係機関の役割や家・学校・地域での備えに目を向ける。	●「最新出動情報」（新潟市消防局 HP）
	6	<考察> ○消防署や関係機関の働きに着目して，通信指令室を中心に多くの関係機関が協力して火災に対応していることを理解する。	◇火災の時，どんな人たちが協力していたか確認する。 ◇西蒲区や新潟市内にある消防署の数や場所を示す。 「119 番」は消防署ではなく，消防指令管制センター（通信指令室）につながるのはなぜか。 ◆連絡の仕組みをフローチャートにまとめる。 ◆消防指令管制センターが中心になることのよさを考える。 通信指令室が中心になって，様々な関係機関と協力し，素早く火事に対応するため。	●「消防のしごと」市消防局発行小冊子 ●You tube 新潟シティチャンネル
	7・8	<考察> ○学校の消防設備を調べることを通して，それらの役割や計画的な配置，消防計画が立てられていることを捉える。	◇学校では，どのような消防設備を目にしたことがあるか想起する。 ○小では，どのように火事に備えているか。 ◆校内の消防設備（熱感知器・煙感知器・消火器・消火栓・防火シャッター）がどこにあるか調べ，校舎図にまとめる。 ◆学校の消防計画を教頭先生に見せてもらい，火事の際の学校の対応を捉える。 学校では，防火扉や消火栓，火災報知器などの設備がたくさんある。避難訓練や消防計画をつくり，火事に備えている。	●避難訓練用校舎図 ●タブレット端末 ●消防計画 ●自動火災報知設備（職員室）
	9	<考察> ○家や地域の消防設備を調べ，消防団の活動を知ることを通して，地域の人たちが協	◇自宅や地域にも消防設備はあるのか宿題で調べさせる。 私たちの家や地域では，どのように火事に備えているか ◆見つけてきた家や地域の消防設備を発表し，どこで火事が起きてもすぐに消火できるように配置されていることを捉える。	●タブレット端末で撮影 ●消防団の新聞記事 ●消防団の方の活動写真

		力して火事からまちを守っていることが分かる。	◆消防団が活動する新聞記事を読み，消防団の意義を考える。 ◆消防団員の話を動画視聴し，消防団のよさを考える。 家や地域にも消火栓, 防火水槽などの様々な設備がある。地域をよく知る消防団が，消防署と協力して地域を守っている。	と動画 ●消防団募集のパンフレット ●消防団用の防火服
	10	＜考察＞ ○学習内容を振り返り，消防署を中心とした働きについて整理し，まとめを作る	◇単元を貫く学習課題を想起する。 ◆協力関係にある関係機関，地域の人々，わたしたちを線で結び, 様々な立場の人が消防署を中心に協力し合って火事を防いでいることをノートにまとめる。 【単元をつらぬくまとめ】 消防署・指令管制センター・消防団などが連携し，協力し合って火事からまちを守っている。学校や地域も防火設備や訓練で火事に備えている。	●協力関係にある関係機関の写真
	11 本時	○火事から自分やまちの安全を守るために，自分たちにもできることや心がけることを表現する。	◇消防士さんより「火事はゼロにならない。みんなの協力が必要」という話を聞く。 火事を起こさないために，自分が協力できることは何か。 ◆グループごとに場所を決め,「自分が協力できること」を考える。 （学校で）学校の避難訓練を真剣にやる。 防火シャッターの下で遊ばないことを教える。 （家で）花火は，水を入れたバケツを用意する。 電気のコンセントを掃除する。 コンロの周りに燃えやすいものはおかない。 （地域で）地域の防火設備がある場所を知っておく。 消火栓の近くに車を止めないように伝える。 ◆友達の考えと比較し, 自分が最も大切だと思ったことを選び，その理由を記述する。	●消防士さんの話 ●火災件数の変化 ●ロイロノート

4 本時について

（1） ねらい

火事を起こさないために自分が協力できることについて，消防士の思いを知り，これまで学んできたことを振り返る活動を通して，既習事項や話し合った中から選択し，表現することができる。

（2） 指導の構想

本時は，小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説における，第 3 学年の内容（3）イ（ア）(内容の取扱い)「社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに，地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。」をねらいとし，市小研の研究主題「問題解決力を高める授業づくり～「つながり」を根拠に見通しをもたせる働きかけに焦点を当てて～」を基に指導を構想したものである。目指す児童の姿を，次のように規定する。

① 見通しをもたせる場面で目指す児童の姿

火事を起こさないために，地域社会の一員として自分に協力できることを，これまでに学んだことを関連させて考えようとする姿。

② 見通しをもたせる場面における構想

＜手立て①＞

リトルファイヤースクールで出前授業をしていただいた消防士さんに再度登場していただき，火災件数の変化のグラフを提示してもらう。そこで「消防士が努力を続けているが，火事はゼロにはなっていない」ことを話していただき，児童に協力を呼びかけてもらう。消防士さんの思いを直接聞くことで，自分にできることはないかと主体的に課題に取り組むきっかけになると考える。

＜手立て②＞

これまでの学習で使用した，火事が起こる原因や学校や家庭における防火設備の数や位置，消防団の取り組みなどの資料をロイロノート資料箱に保存し，閲覧できるようにしておく。資料を参考にしながら見通しをもたせ，協力できることを考えさせる。

(3) 展開

学習活動	T：教師の働き掛け　C：予想される児童の反応	■評価　・留意点
1　火災件数のグラフから，課題を設定する。	T１　このグラフを見てください。新潟市の火事の件数はどちらかというと増えていますか？減っていますか？ C１　どちらかというと減っているかな。 T２　どうして減ってきたと思いますか？ C２　消防士さんたちが火事を起こさないように呼び掛けていた。 C３　家に火災報知機をつけるようになったからかな。 T３　消防士さんや住民一人一人が気を付けてきたのですね。 T４　リトルファイヤースクールでお世話になった消防士さんから，みんなへお話があるそうです。 GT１　この後，火災件数はどうなったのか，グラフの続きを見てみましょう。 C４　あれ？　減ってない。何でだろう。 GT２　たばこやコンロなど，様々な原因で，実は火災件数はあまり減っていません。辛く，悲しい思いをしている人が世の中にたくさんいるのです。みなさん，このままでいいのでしょうか？ C５　よくない。かわいそうだよ。 GT３　消防士も日々努力をしています。火事が起きない世の中にしたいのですが，火事をゼロにすることは難しいです。火事を起こさないために，地域の一員として三年生の知恵と力を貸してほしいのです。 T５　今日はどんなことを考えたらいいですか？ C６　自分たちにできることを考えたい。 C７　呼びかけたりするといいのかな。 T６　今日の学習課題はどうなりますか？	【資料】 「火事件数のうつりかわり」 ・これまでの時間の板書や使った資料をロイロノートの資料箱に保存し，活用できるようにしておく。 ・

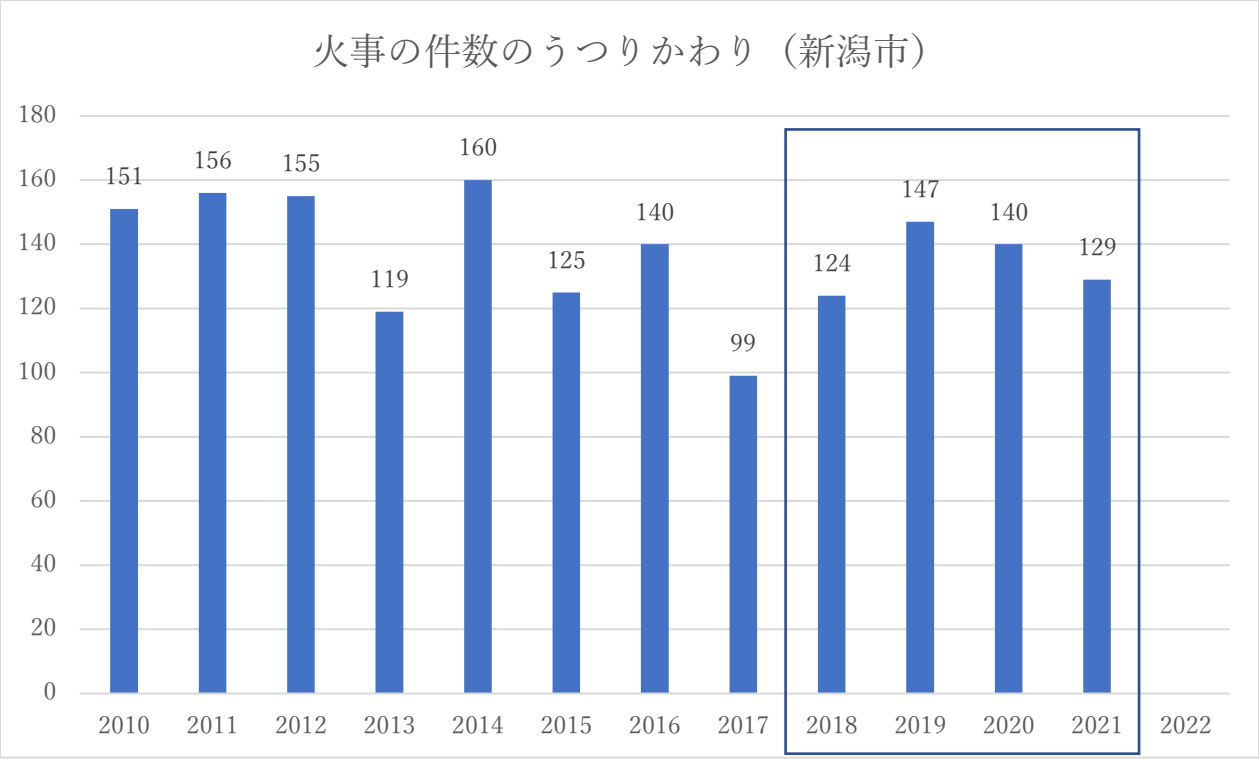
2　自分にできることを出し合う	◎火事を起こさないために，自分が協力できることは何か。 T６　協力できそうな場所はどんな所があるでしょう。これまでの学習で調べてきた場所を振り返って考えてみましょう。 C８　学校の防火設備を調べたね。 C９　家にも火災報知器があるか調べたよ。 C10　地域にも消火栓があった。 T７　では，学校・家・地域の３つの場所で協力できることをグループで分担して考えてみましょう。使いたい資料はありますか？ C11　ロイロノートに保存してきた資料を見て考えたいです。 T８　カードに書いて，黒板に貼りましょう。 T９　グループで考えたことを教えてください。 【家】 C12　花火は，水を入れたバケツを用意して家の人とする。 C13　電気のコンセントを掃除すること。 【学校】 C14　学校の避難訓練を真剣にやる。 C15　防火シャッターの下で遊ばないことを１年生に教えたい。 【地域】 C16　地域の防火設備がある場所を知っておく。 C17　消火栓の近くに車を止めないように家の人に伝える。	・ ・これまでに調べてきた３つの視点を与える。 ・火事が起こった後に視点を向けた意見も認める。 ・黒板の Y 字チャートに，カードを貼っていく。
3　自分にできることを選択・判断する	T８　今日の授業を振り返って，自分が一番大切だと考えたことと，その理由を発表しましょう。 C18　火災報知機を家につけることです。理由は，火が出る前にけむりでブザーが鳴るからです。【B 評価】 C19　電気のコンセントを掃除することです。理由は，この学習でコンセントからも火が出ることを消防士さんに教えてもらって，とても驚いたからです。自分の家でもほこりがたまらないように掃除をして，たこ足配線にならないようにしたいです。【A 評価】	・根拠となる理由を述べさせる。 ■火事を起こさないために自分にできることを記述している。
	T９　みんなの考えを聞いて，消防士さんから感想を話してもらいます。 GT４　みなさん，たくさんの考えを出してくれて，素晴らしいです。火事が起こったら消防士が命がけで消火します。ですが，一番大切なのは，火事を起こさないように家族や地域の人が協力し合って，一人一人が備えをしっかりすることです。今日学んだことを行動に移して，たくさんの人に伝えることができれば，必ず火事を防ぐことにつながります。	

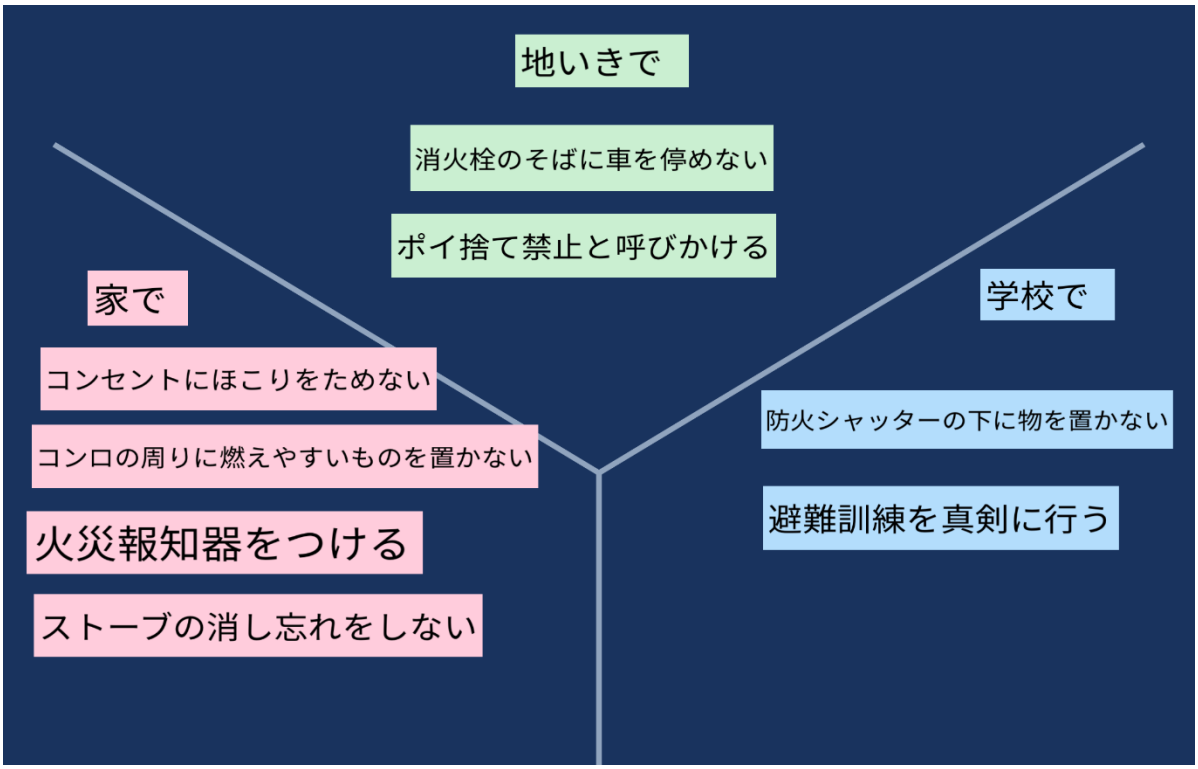
（4）　本時の評価

・火事を起こさないために自分が協力できることを記述している。（B 評価）

・火事を起こさないために自分が協力できることを既習事項と結び付け，具体的な活動を挙げながら記述している。（A 評価）

【資料】



新潟市消防局 HP より作成　2017 年までと 2018 以降で 2 回提示する。
2022 年は，９月 19 日時点で 111 件。昨年を上回るペース。

黒板に貼る Y チャートの例